

50号発売特集

洛星新聞五十号の壁に達す

一九五二年六月二日に洛星新聞創刊号が発刊されて以来、洛星新聞を全号で五十号の壁に達することになりました。思えば十年の間に洛星新聞も随分充実したものです。初めは更半紙ガリ版刷りに始まり、やがて現在の新聞紙の半面の物。そして現在の型に至りました。ときには大胆な記事もありましたし、何の価値もないような記事もあり、大変な非難を受けたものです。しかし、それを乗り切り、現在に達したのです。

が、皆の洛星新聞への関心は以外に少なく考じられます。例えば新聞に非難をあびせるだけあびせ、そのくせ何にも洛星新聞に協力しない、「声」等の投稿記事はの頃は皆無に近い等です。皆さんよりの以上の協力があるなら、百号新聞を見るとき、我々はその発展ぶりに目をみはるでしよう。くだいようですが、それには皆さんの協力が欠かせない条件なのです。洛星新聞は新聞部の新聞ではなくて、生徒全体の新聞なのです。

本号を「洛星新聞五十号特集」として、今までの洛星新聞の中で目立つたものを載せることにします。これだけでは洛星新聞の発展のほんの概略しか知ることが出来ませんが、洛星新聞の変化を少しでも知ってもらいたいです。

洛星新聞五十号への経過

▼一 号 更半紙四面
一九五三・六・二、洛中校歌生る・大木の如く・運善の決心・文芸・ニュース

▼二 号 更半紙四面
一九五二・七・十四、故近藤保君の死を痛みて・窓・ニュース

▼三 号 更半紙六面
一九五三・一、カレンダー・スポーツ・洛星初出場（私立中学駅伝競争）

▼四 号 更半紙色刷り六面
一九五三・四、新入生諸君に・「連絡板」始まる

▼五 号 更半紙色刷り八面
一九五三・六、懸賞作文「何故生徒心得を守らなければならぬか」

▼六 号 更半紙色刷り四面
一九五三・九、父母特集号、「おやつ」廃止

▼七 号 更半紙色刷り六面
一九五三・十一、図書館ニュース

▼八 号 現在使用の紙二面
一九五四・五、新入生に対して・新校舎の落成近し・題字緑色刷り

▼九 号 四面
一九五四・六・二四、第五回生徒総会・活発な討論にわく・高校進学は無条件・楽しかった四日間・修学旅行特集・「文苑」・「静思」

▼十 号 二面
一九五五・一・二十、洛星高校いよいよ開校！一流大学入学へ万全・ハンドボール部大活躍・優勝と三位（京阪神・近畿）・題字緑、下二段広告

▼十一 号 二面
一九五五・三・二三、「主張」始まる・購買部の牛乳を十円に値下げ・「群星」に論議集中・新校舎落成式・卒業式・中学生々々活終止符・題字緑、下二段広告

▼十二 号 二面
一九五五・五・十八、生徒会新整足へ・「声」始まる・生徒会の課題・低調続けるクラブ活動・題字緑、下二段広告

▼十三 号 四面
一九五五・九・二七、さよならなからホワイト校長・第七回生徒総会・高校生の生徒会費・中学生徒会が使用！「無断で」と怒る高校生・題字褐色刷り、下二段広告

▼十四 号 四面
一九五六・二・十六、高校生生徒会近く発足・十大ニュース・府下私立中高校駅伝・洛星A二位に入賞・題字緑色刷りに戻る

▼十五 号 二面
一九五六・五・二三、生徒会活動軌道へ・題字緑

▼十六 号 二面
一九五六・八・二四、緑蔭特集号・題字緑

▼十七 号 二面
一九五六・十・十九、創立五周年記念祭迫る！準備全く完了・題字緑

▼十八 号 二面
一九五六・十一・二一、生徒会新委員決定！生徒会活動後期に入る・高校執行委員長に高橋君・「編集後記」始まる・題字緑

▼十九 号 二面
一九五六・十二・十、軌道に乗った生徒会！後期予算決る（中学生徒会）・「学級は生きている」始まる・題字緑

▼二十 号 二面

一九五七・一・二三、積極的に乗出すか(中学生徒会)―生徒無関心に不満。題字緑

▼二十一号 大版二面

一九五七・二・二五、前途な多難な生徒会の運営、読書調査「文学書」「史書」が好好き。衣笠」始まる。低達するクラブ活動。題字緑

▼二十二号 二面

一九五七・三・二三、祝第三中学卒業式・総会意外に低調。年度五大ニュース・バツクル図

二 面白い記事

▼私達が光輝ある洛中に入学し、も早二カ月、その間学校の内状も慣れ、皆ととも日々楽しく学に励むことを楽しみにしています。

また、本格的なクラブ活動をするにいたり私達五名の部員が責ある洛星新聞の編集に従事するとになりました。未知なる私達新聞部に入つて良き新聞を作る實をうまく果してゆかれるか、なはた疑問であります。然し私がいくら努力しても、他の諸君の協力なくしては発展を望むには困難でありますので、互に協力し合い私達の洛星新聞を立派なものに仕上げて行きたいと思ひます。今後における皆様方の指導、協力を期待致します(創号洛星新聞発刊するにつて)

▼去る四月から七月まで試験的放課後「おやつ」を給与しておりましたが、父兄の方々の中には希望なさらない方もありますし

面白い記事写真など

また、今学期から授業時間が変更になりまして昼食が午後一時になりますので「おやつ」のための時間を一寸つくりかねますからこれを廃止することになりました。何卒御了承下さい。（六号おやつ廃止）

▼本年度の三年生の父兄会で本校生徒の洛星高校進学に関する諸事項が明らかにされた。

それによると本校生徒は本校を卒業すれば、無条件で洛星高校への進学が許可される。但し、全科目の平均点が六〇点以下の者、または主要科目（英語、社会、理科、国語、数学）中、五十五点以下のものが三科目以上ある者には、卒業証書を与えず落第せられることになった。

なお、高校に於ける教科は万全を期するという。（九号高校進学は無条件）

▼いよいよ本学年最後の新聞となったので、一つ今まで一年間を通

定しました。順位は別表の通りです。

- 1、ホワイト神父様帰国四二
- 2、京都市私立中学対抗駅伝

第二位 三三三

- 3、ヴァートル学園第四回

念祭 二二

- 4、洛星高校発足 七
- 5、佐藤先生ノートルダム女学院へも講義に行かれる六
- 6、サッカー校内大会開く五
- 7、クラブ活動活発になる四
- 8、富永先生長女御誕生 二二
- 9、高松宮林第七回弁論大会

小林君出場 二二

- 10、高校夏の制服にネクタイが

まる 十

(十四号本年度本校の十大ニュース)

▼時節柄固苦しい記事はゆめにて柔らかな記號を集めてみました

山の記録、旅の話など、夕涼みもしながら楽しんでもらいたいです。

思います。(十六号緑蔭特集)

③山沢君の死去 一七
④総長の来訪 九
⑤修道院完成 七
(二十) 同今年度五大ニュース
九
一
記
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

六 めに存しているのであるが、種
七 の学校にはさらにそれ以上のめ
四 があつてしかるべきなのであ
（ ）ではその点は何かあるであ
の か。生徒手帳には何も明記し
不 い。入学案内には一応書いてま
い が、しかし現在これがうまくい
ス ているだろうか。もうすでに創
を 八年目をむかへていよいよ充
け 時期に向かおうとしている学校
立 としては、もう少し何か徹底し
い のがあつて然るべきである。そ
で には学校、教員、生徒三者の共
七 した心構えが必要であるが、ま
て 三者がどのような気持ちで学校
七 活といふものを送るべきかを少
に みてみた（四十四号洛星の危機
七 ▲洛星中学校々が完成したので
に 昭和二十七年。あれから洛星
七 十周年を迎えるに至つた。そこ
つ 洛星新聞でも「十周年をむかへ
私 う」と題して、シリーズ記事を
が 載せることにした。（四十八号創
周 立十周年を迎えて）

ものうなるのいともれす生女が滴ででせ十
写真右上は
洛星新聞の
記念すべき
創刊号
写真右下は
第16号第四
期卒業生に
送る写真

第20号 第一期卒業生へ送る写真

当選発表。題字緑

▼二十三号 二面

一九五七・五・二三。中学委員長長決定。来月中旬には完成。待望の体育館。題字緑

▼二十四号 四面

一九五七・七・十九。執行委員選は永原君。第十回京都府高校総体育大会。優秀な成績。題字緑

▼二十五号 四面

一九五七・十・二十。待望の全寮舎完成。敵艦に祝賀式挙行。同回録。一五周年を迎えて。第九回私塾総合体育大会。二種目に優勝。題字緑

▼二十六号 四面

一九五七・十一・三十。生徒総会開かる。道德教育をどう思うか。図書館六年間の歩み。局長に時野谷君。題字緑

▼二十七号 四面

一九五八・一・二五。森藤政策難関に。会費上げ問題で。高橋君。道德教育をどう思うか(続)。

・「先生を料理するマナ板」始まる。

・「映画」始まる。

・「特々ネ」始まる。題字緑。下二段広告

▼二十八号 六面

一九五八・二・二五。第一期生卒業記念号。特集「さらばわが弟」連よ。一般によい洛星の評判。中

入学試験風景。この時から題字は
 在使用のものになる。(上田先生
 記)理由は色紙に字算がかかる
 ので、下二段広告
 ▼二十九号 四画
 一九五八・五・二十二、座談会
 生徒会の盲点をつく、大学に入
 りて、僕の受験秘話・日食観測
 成功(文芸部)・「こんにちは先
 生」始まる、魂を安らかに上島
 死去
 ▼三十号 四画
 一九五八・七・十六、臨時総会
 題(中学)・会費十五円値上げ
 H・Rはいかにあるべきか・思
 出の修学旅行、下二段広告
 ▼三十一号 六画
 一九五八・十・十五、追悼「ウ
 アトル祭、自からの手でなん
 か考える必要ある規則の実行
 京都府私学総体・ハンドボール
 勝・なかな図書館の本・高校
 学旅行「色」見て歩記、同窓会
 第二号発刊
 ▼三十二号 四画
 一九五八・十一・二十、後期生
 会活動始まる、記念祭を省みて
 新局長(清水)決定・「正木時
 士」始まる、「隋想」始まる
 ▼三十三号 四画
 一九五八・十二・二十、祝クリ

マース・生徒会の現状・「やよい」
てな」始まる
▼三十四号 四画
一九五九・一・三十。座談会上
春放談・入学試験せまる・冬休
体談
▼三十五号 四画
一九五九・三・一。第三期生卒
を祝す・盛大たつた卒業式・受
者四四一名・第八回中学入試風
▼三十六号 四画
一九五九・四・二十八。入学お
でとう・第八期生喜びの入学式
ヨゼフ・ナドウ校長帰国・代理
小野副校長・大学入試状況・
「What do you think?」
始まる・新任教師紹介
▼三十七号 四画
一九五九・六・十一。前期生徒
長雲（高校）松本（中学）両君
決定・OB文庫
▼三十八号 四画
一九五九・七・八。サマー・特
号。もつづく夏休み!・中学修
旅行・富士箱根へ
▼三十九号 四画
一九五九・十・二十。高校後期
生徒会長二十五票差で小城君（日
）に決定・延びに延びた運動会
新局長に河村君
▼四十号 四画

は 一九五九・十二・十八、樂し
リスマスを一莊重賑雨ツドとす
トマス！・綜合雜誌を再び（金
新集）一盛りの上なる氣運・文章
み 始まる。
▼四十一号 四画
一九六〇・二・二十一。未來
高校第三期生卒業。依然不潔
驗 クラブ。中学入學試験終る。十
景 三倍の狭き門
▼四十二号 四画
一九六〇・五・四。希望に燃
め 第九期生喜びの入学式。高
・ 徒會長西山君（日2A）信任
に 中学生徒會長長草島君に決
「 アンケート・中二・中一に大々
違ひ。（特別寄稿）政治への関
會 京大教授猪木正道・「注
に 始まる・「映画紹介」始まる
道院訪問記
▼四十三号 四画
一九六〇・七・十五。何故た
果 金・生徒の猛反省を望む。安
學 僕達はこう考える。」民主主義
生 を目的・總体ますますの成績
2 クラブと僕達。始まる。
▼四十四号 四画
一九六〇・十・十三。第九回四
・ 祭開近・楽しくやうやう。「洛
想」始まる・洛星の危機・「ソ
ソックス」始まる。

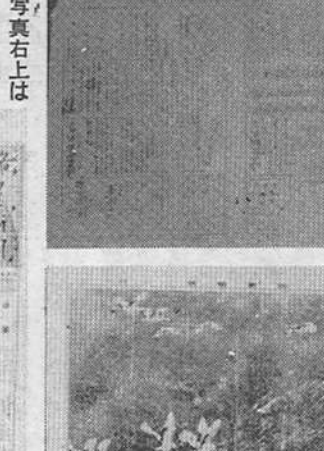
一六〇・一二・十七。生徒
 期会長決まる。一高。校生徒会長
 田君。中学生徒会長は猪木君
 九回記念を省りみて。「み
 聞いてくれ。僕の夢を」始ま
 洛星。オケストラ二位獲得。
 ドボール四連覇成る。新局長
 入君
 ▼四十六号 四面
 一九六一・一二・十三。卒業生
 四期。特集。はばたけ！第四
 業生。さらば洛星。量りの質
 入学志願者願書受付。モース
 の母さんに聞く。校門完成
 ▼四十七号 二面
 一九六一・一二・三十一。第四
 校卒業式。蜜の光。窓の雪。三
 流競艇をさう。一二・二二。
 三日にはついに全校閉鎖に至
 この結果。いかに。本校卒
 一大学。格調
 ▼四十八号 四面

一九六・五・二六、十周年記念特集号。創立十周年を迎える中学生徒会長・菅君信任による「水に生徒会長には田中軍治君が在る」・第十期生待ちに待つた式・この躍進に続けー！京本十名・大西君のアメリカ便り・上野大活躍ー高校総合体育大会アラールさんとバンスさんへねて（新聞部インタビュをねて）「聖語解説」始まる・「（第）期卒紹介」始まる
 ▼四十九号 四面
 一九六・七・十七、十周年特集号その二・創立十周年をてー写真で見る洛星十年の歩第二回アンケートの結果・一クラブ研究発表」始まる・総理事長けさ来校・念願の洛星の工事進む
 ▼五十号 四面
 一九六・十・二十、洛星新十号発刊記念特集号。

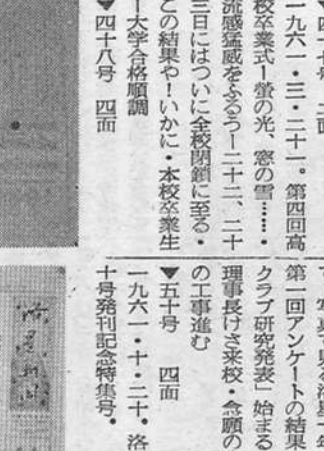
年記
て、
・高
信任
入学
八六
陸
人会
を訪
の二
名画
文化
総長
会館
迎え
み・
記念
開五



第28 号第一期卒業生へ送る写真



1990



「女 総厚 星合 新聞

北海道かいまみ記

北大ポプラ並木

天人峽羽衣の滝

トラピスト修道院

夜は静かである。宿の裏を流れる小川のせせらぎだけが、寢床に響いてくるのである。翌朝はどんよりと曇つていて、摩周湖視湖が

札幌到着が朝六時半頃、すぐに
観光バスに乗つて市内遊覧。朝早
くの札幌の町は静かで、名物のト
ウモロコシの街頭販売もあり、また
店開きしてない。北大に行つてポ
プラ並木を見物し、植物園に行つ
て、車中の疲れをいやす。植物
園は本当に静かで、昼ともなると
あたり一面に弁当たの花が咲くそう
な。日本最初の機関車が陳列して
あつた。タロームといふ。植物園を
出て、雪印乳業へ向かう。雪
印乳業では全ての工程が自動化さ
れ人間は監督するだけであり、工
業の進歩には、目を見はるばかり
である。雪印を出て又市内遊覧、
十一時頃札幌駅に向い、そこで旭
川行の汽車に乗り、北海道第二夜
を向える天人峠温泉に向う。旭川
の町は着いた時、お祭りで町中巨
駅から雄急「はまなす」に乗つて
一路、阿寒国立公園の北の入口「
美幌」に向つた。車窓からのながめ
は、はてしなく広がる平野、窓
ぞして作物らしい物も、見えな
い。平野を突つ走る。寒々としたま
ホーツク海の見える手前の美幌町
に着いた。バスに乗つて美幌の町
を過ぎ、馬鈴薯の花咲く中、ハツカ
の花咲く中、サイロの立つてい
る中を過ぎ、田舎路湖第一の展望所
「美幌峠」に着て来た。景色は
以上、雄大なながめの中に屈阿
路湖が横たわり、右手に和琴半島
、左手には雄海の中に白い帯を巻
いている観光道路、全く「絶景か
な！」である。名所にはどこでも
商人さんがいるが、こども例にな
らず、アイヌ人が、手彫のアカ

危がまわっていたが、幸運にも全湖神秘のペールを説いて僕等の前に姿を表わしたのである。ガイドさんの言葉を集めると「あなた達の日頃の行いがよいために、神様はペールをお取りになったので御座いますよ」とかいっていたことが思い出される。本当に水は澄んでいた、摩周岳にはガスが少しかかっていた。第 1 展望台を飛越して第三展望台に行った。第一と第三はちょうど直角に位置し、第三からはながめも手前に小島があつて、仲々オツなものである。摩周に名残りをおこみ、これから四百八曲りといわれる横断道路（阿寒・摩周）を通過して阿寒湖に向つたのである。途中には飛行場があつて、小さな飛行機が機止まつていた。官立文句にあるように横断道路は

函館港を出る連絡船風景

急坂、急カーブの連続でスリル満点という所。三日月のバスと行き違いをしたバスは、後輪の片側が道からはみ出し転覆寸前という所で止まり、三日月のバスに引張つてもらつて、無事行き違いを治したさうな、もし落ちていれば翌日の朝刊をにぎわしたことだろうに……。

途中「清水の沢」で降りて、冷水を一怀飲み、又乗り込んで水を一杯飲み、上り、更に登山を阿寒湖に行く二丘、雄阿寒山阿寒湖の見える双湖台ウニバンケトウの見える双湖台へ。僕達はロータリーを通過して、後述の公園に着く。公園に着くと、

を通り、雄阿寒岳のすぐ下を通つて阿寒湖についた。阿寒湖の水は、緑と土を混ぜたような色に濁り、今見て来た摩周湖と対照的であるように思われる。阿寒湖では船に乗つて湖上遊覧。湖からの雄阿寒と車窓からの雄阿寒は山が違つたように大きく見え、何か富士山に似ているようだ。雌阿寒も今なお粉煙を上げている。緑の水と

た。公園には啄木の歌碑
しらしらと永かがやき
千鳥鳴く
釧路の海の冬の月かな
が立てられている。啄木は釧路卒
こよく愛した。我々も釧路の町
に来てみると、何か離れ難き物と
とりつかれたような気持になり、
啄木の気持も解るような気がす

白い煙と空の色が大へんよくマッチていて水の濁りがかえつて生きているようである。マリモの養殖地の小島は、うつそうとしたく、前田先生が買い損い、たい

双湖台からのながめ

木々でおおわれ、歩く所も上に昇るとぶわぶわしていて、スポンジの上を歩いているような感じ。マリモは思っていた程美しいものではなく触れてみたが感触はビロードの布に触れているような気持

僕達は彼等と合唱、話、ゲーム、アール氏の十八番、こころと笑し時を過ごした。ここには旅行中聞くところ四回目の「バナ

車に、旭川東高の応援団が乗っていた。御路からの

人失望されていた。御路からの



・ホート」が披露され、大喝采を浴びた。彼等はこれに答えて女徒の層雲缺案内や、かすれた声歌う、「北上夜曲」など数々披した。特に受けたのは、演劇部による落語「ジユゲム」であつた。彼等とは富良野で別れた。

ホームの端から端まで走つて達を送つてくれたことは今でも達の心に奥深く印象深く残つてゐる。

札幌駅に降り立つたのは二回である。これから室蘭行の汽車

つて洞爺湖に行くのであつた。普通なら一時間半のと
 夕方早くから宿にこもつて
 東室蘭から乗つた気動
 ころ、わずか三十分で切り
 楽しんだ。
 一夜明けて、いよいよ上

ドは早いし汽車を全部汽
車に変えたら快適だろう
と思うのは僕だけではない。
い。洞淵湖付近からそ
う悪天候にみまわれ、洞
湖は曇り天気であつた。
々はさつそく船に乗り込
湖上からは同乗者十和
と全然異り、色とりど
りが所狭しと建っている

に向かつた。はるばる遠路
訪ねて来たのに三十センチ
四方の窓からちらつと、
一かゝりを見るにだけは、
全く残念だ。又遠路館前湯
の川温泉に戻つた。何ん
しても雨が降つたのが惜
しくて仕方がない。函館山
も登れず、立待峠や異国風
の建物もうろく見ずに、

日は北海道よきならでま
る。

北海道を訪れた人が誰
も味わう別離の哀愁で、見
送る者、見送られる者、何
かに残つて、去り難い
のである。

我々が、その後無事に
都へ帰つて来たのは、書
に及ばないであらう。

岸が望め、清く澄み通つ水を通して湖底が見え、和新山が東の湖畔にそび立っている。我々が昭和

★第五十号は洛星新聞五十

編集後記

記念祭も目の前、今年は一
年以上に意義あるものに
たいものです。

山に登つた時は、琉賓奥、
奇想天外な山肌で覆わ
れて、途中まで登るのが精一
であつた。昭和新年から
帰つてから我々は洞爺
湖へと泳ぎした。この時
ラル氏はボートの沈め
りました。

★今号をもつて局長の溝入
君は身を引かれることにな
りました。

★（聖語解説）休みます
今号では、「西」があ
りませんで、また、高
生に修学旅行記事の題を
集めたのですが、応募が
のまじきものが、真

★新聞局では松さん
の発行記念号としました。
それで洛星新聞の五十号に
至るまでの経過を載せるこ
とにしました。

★投稿を待つています。

★（聖語解説）休みます
今号では、「西」があ
りませんで、また、高
生に修学旅行記事の題を
集めたのですが、応募が
のまじきものが、真

雨の晩館の町を遊覧し、

★二期中間審査も終り、

後の訪問地「晩館」に向か
た。車窓からは、雨が激
しく、何も景色が見えず、
車内にはゲームの花が咲いて
いた。晩館に着いたのが昼
過ぎ。僕は豪雨に見まわ
る。雨の晩館の町を遊覧し、

★二期中間審査も終り、

★先号で「マイ・テイネー
ジャー」を連載すること
を約束しましたが、あいにく紙面の都合により、省か
せていただきます。御諒
承を。

★我が校のハンドボール部では、初の団体出場であり、全員期待を持って見送つが、盛岡第一高校に10-1で敗れたことは、惜しまれます。しかし、初出場であつたが善戦よく闘つてくれたのは、大いに感謝するものと来季を期待します。

編集後記

★新聞局では皆さんの入
投稿を待っています。
★(聖語解説) 休みます
★今号では、「声」があ
ませんでした。また、高
生に修学旅行記事の題を
集めたのですが、応募が
りませんでしたので、新
局で「北海道がいま記
とつけました。

★我が校のハンドボール
は、初の団体出場であり
全員期待を持って見送つ
が、盛岡第一高校に10
で敗れたことは、惜しま
す。しかし、初出場で
れたけ善戦よく闘つてく
たのは、大いに感謝する
とともに来年を期待します。